

第1学年 算数科学習指導路案

教科等	算数科	単元名	おおきい かず	本時	全14時間扱いの6時間目
学級	1年4組	授業者		教室等	2階 1年4組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 100の教え方や読み方、書き方を理解する。	
導 入	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1.写真を見て、おちばの数を予想したり、数え方を考えたりする。【表現】 T:おちばは、何こくらいあったでしょう。 C:80個くらい。 C:分からない。 T:おちばの数は、どのように数えたらよいでしょう。 C:10こずつ囲む。</p> <p>おちばをはやく、正しく、かんたんにかぞえるためには、どうしたらよいかかんがえよう。</p>
	<p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□前時までの学習内容を掲示し、ポイントを振り返る。※スパイラル化</p> <p>□これまでの学習を想起させ、よりよい方法を見付けられるようにする。</p> <p>○話題設定の工夫 おちばの写真を提示し、「どうやって数えるとよいか」と問いかけ、迷う状況を作る。1こずつ数えることが大変なことを理解し、まとまりで数えるよさに気付けるようにする。 ※一般化</p>
展 開	<p>2.数えた結果を確かめる。【対話】 T:おちばは何個ありましたか。隣の友達と「自分がどう数えたか」「おちばは何個あったか」の2つを話し合ってみましょう。 C:〇〇さんと同じ数え方で、数も同じでした。 C:数え方は同じだけど、数が違います。</p> <p>3.おちばの数だけ算数ブロックを並べる。【表現】</p> <p>4.より大きな数のまとまりとして、100を知る。(交流) T:10が10個集まると、100という数になります。</p>
	<p>□話型カードを提示し、友達の意見を受け止めながら、話を聞くよう促す。</p> <p>○話し合いの話型の提示 話し合いの話型カード「友達の考えを受け止めよう」「友達の考えの良いところを伝えよう」を示す。</p> <p>□2人1組で協力しながら行ってもよいことを伝える。</p> <p>○交流の目的と視点の明確化 目的:おちばのよりよい数え方を考えるため。 視点:自分と友達の数え方は同じか違うか。 を提示する。 ※焦点化</p>
	<p>5.適応問題に取り組み、数や数え方について確かめ合う。 【決定】 T:教科書98ページの2番の問題に挑戦してみましょう。まとまりを作って数えてみましょう。</p>
終 末	<p>6.本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 T:振り返りをノートに書きましょう。振り返りのポイントやふりかえりのたねを参考にしましょう。</p> <p>□自分の学習を振り返り、学習感想を発表し、学び合いの良さを実感させる。</p>

【板書計画】

大きいかず

◎落ち葉をはやく、正しくかんたんにかぞえるためには、
どうしたらよいかかんがえよう

まとまりでかぞえると、はやく。

よそう

- ・80こぐらい。
- ・わからない。

かぞえかた

- ・まとまりでかこむ。
- ・10こずつかぞえる。

10が10こで 100(ひゃく)

【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

生活科の学習で行った身近なことを想起させ、「おちばの数がいくつあるか」ということを話題に設定する。「たくさんあると数えにくい」という思いを生じさせ、既習事項の「10のまとまりで数えると便利」という考えに思考が向くようにする。そして新たなまとまりである、100のよさに気付けるようにしていきたい。

話し合いの話型の提示

考えを交流する際は、「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えの良いところを伝えよう」のカードを提示し、前向きな交流活動を目指す。

(2) 「学び合う」ための手立て

交流の目的と視点の明確化

「よりよいおちばの数え方を考えるため」という目的と、「自分と友達の数え方は同じか違うか」という具体的な視点を与え、ねらいに沿った交流となるよう配慮する。